新宮山彦ぐるーぷ第２０７５回

南奥駈道（山在峠～玉置辻）の巡回整備

◇実施日：２０２０年４月２６日（日）晴

◇参加者：

【逆峰班】沖崎吉信、畑林清子、大江加予子、山川治雄、岩本信行

【順峰班】濱野兼吉、中前偉、生熊千万子、高階美根子、志岐敬梶野照雄　　１１名

【逆峰班】

朝、本宮への集合が早かったので、玉置辻も８時２０分と昨年より２０分早くスタートできた。

林道から奥駈道に入る

１０分程で倒木大

森山に到着

林道から奥駈道に入る

林道から奥駈道に入り１０分位で杉の木が枝を広げて道を塞いでいる。直径は１０cm位、山川さんが手早く処理して前へ進む。途中、一度の休憩のみで１０時丁度に大森山三角点に着く。ここまで昨夕の深酒のためか、いつもに増してしんどく、苦しくて、ヒーヒーの１時間４０分だった。年も重ねているので、山行前日の深酒は慎まなければ、と大いに反省だ。

今日は靡看板を背負っている。設置予定の靡は、４番吹越山から４０番釈迦ケ岳間の３７ヶ所で、今日背負っている８番岸の宿の位置は、はっきりした記憶がない。祠も石碑も無く、有るのは碑伝（ヒデ）のみと承知している。他の皆にも十分注意して歩くことをお願いした。

倒木切除

第８靡岸の宿

五大尊岳山頂に到着

大森山からの下山路に設置していたロープは、植平修氏ら金峯山寺の方々で、新しいロープに取り換えられていた。ここまでの資材運搬、設置・取替は大変な作業であったと思い、有難く使用させて頂いた。

急坂を下りきってトラバース道になるが、岸の宿が見当たらない。通り過ぎてしまったのかと不安になってきた矢先、あった。杉の木に多数の碑伝が打たれている。注意深く探さないと、すぐに通り過ぎてしまう場所だ。見つかってヤレヤレだ。

杭を打ち込むための石を探しに前方へ進むとすぐに切畑辻に出た。３０m弱の近さだ。山川、岩本のお二人に杭打ち、標板取り付けをお任せして作業終了。今日の目的の一つが完了し、五大尊岳を目指す。去年の合流地点付近を通過するが、順峰班の姿は見えず、しばらく進むとチェーンソーの音が聞こえてきた。五大尊岳山頂で合流、１１時５０分だ。ここまで３時間３０分、第７靡五大尊

岳の標板の設置も終え昼食。両班とも倒木は少なく、道も異常なしとの報告で、車のキーを交換、山頂に４０分滞在して別れた。五大尊岳からの下りが急なことは判っているが、実際に歩を進めると、年のせいなのか、こんなに急だったかと改めてその厳しさを実感、来年は、順・逆メンバーの入れ替えが原則だ。来年はこれを登らなければいけない。

五大尊岳を出発

大黒天神岳

山在峠に着く

１時４５分、金剛多和に着く。五大尊岳山頂から１時間１０分で到着した。６～７分休憩して大黒天神岳へ、２０分少々の登りが、今日一番堪えた。１０～１５ｍほど登って一服、また１５ｍ進んで一服。これを１０回位繰り返し３０分近くを要してやっと山頂に着いた。こんなことは今までに無かったが、ここまで来たら後は登りなしだ。３時１５分、山在峠に到着した。ヤレヤレ、皆さんご苦労様でした。

（記：沖崎　写真：岩本）

行動タイム

玉置辻08：20→09：50大森山→11：05岸の宿→11：50五大尊岳12：30→13：45金剛多和→14：20大黒天神岳→15：15山在峠

【順峰班】

本宮の古道センターに集合し、沖﨑代表より本日の行動指示を受け、私たち順峰班は山在峠に向け、梶野さんの車に４名山川さんの軽トラックに中前さんが運転し私が助手席に乗って出発。先導する梶野車行は三里橋を渡って山在峠へ。途中山在峠への進入路を間違え少し時間がかかる。この道路は狭い上に葛籠折れの急な登り坂だが、梶野・中前さんのハンドル捌きは確かで、颯爽と山在峠に到着。

山在峠で出発準備

金剛多和の水場

順峰班参加者

私は五大尊岳の靡標板を中前さんは標識の支柱を背負って出発。今日は大森山まで標高差約７００㍍。道中危険な場所はないが、われわれ順峰班には登りが続く厳しい行程である。金剛多和までは登りも緩やかで、最高峰大黒天神岳（５７３．９㍍）まで道を塞ぐ倒木もなく順調に進み、金剛多和手前から左折して水場の確認にくだる。梶野さんによればこの水場は水が四方から流れ込んで、少々の日照りが続いても枯れることはないとのこと。水場から戻り少し下ると第六靡「金剛多和」である。

金剛多和は「第六番目の靡」六道の辻とも呼ばれ、仏教の教えでは、亡くなった人びとが送られる冥界への入口で、生前の行いによって地獄、餓鬼、畜生、修羅、人間、天に別け送られるらしい。ここに安置されている「役行者」は、にこやかに微笑んでいて、優しく人を包み込んでくれる非常に豊かな姿である。少し長めの休憩をして五大尊岳に向け出発。

倒木処理

五大尊岳山頂

支柱を打ち込む

倒木が数本あり梶野さんがチェーンソーで処理。４本目の時に切断した木が梶野さんの頭に当たり、少し傷ついた模様であるが本人は大丈夫といっている。いつもはヘルメットを装着しているが、今日は暑いので車に残してきたそうだ。

五大尊岳への最後の登りで左側の岩場にアケボノツツジの花が咲いている、と中前さんが教えてくれる。新緑の黄緑の葉がきれいで、木漏れ日の中を順調に五大尊岳（８２５㍍）山頂に到着。玉置辻からの逆峯班と合流し、私たちは持参した「第７靡五大尊」の標識を立てる。岩ばかりの山頂で支柱を立てるのに心配するが、中前さんが打ち込める場所を探し出し、倒木の枝を切ってハンマー代わりにして、支柱を叩きうまくおさまる。

標板の取り付け

大森山への登り

大森山に到着

五大尊岳山頂には「奥駆葉衣会」が「不動明王の像」を安置し、１９７５（昭和５０）年の当山派開眼供養の紫橙大護摩が執行されたと記されている。しかし、２００５（平成１７）年に台座だけを残して消え去り、現在の不動明王はその後新たに設置されたものである。

作業が一段落し昼食。今日は「カフェ・コジマ」は休みだが、生熊さんがコーヒーを振る舞い、チョコレートやお菓子の差し入れで寛ぐ。

車の鍵を交換し、私たちもいよいよ今日一番の難所大森山を目指して出発。五大尊岳から切畑辻まではいったん下る。シャクナゲの群落があるが今年は花の裏年のようで、殆ど咲いていない。

いよいよ本格的な登り。逆峰班が立てたばかりの「第八番靡岸の宿」を過ぎて急峻な尾根道の直登である。新しくロープが張られ安全に上り下りができるように対策を講じているが、ロープのないところは近くの木に掴まりながら登る。喘ぎながらもなんとか二等三角点大水ノ森（１０４５．３㍍）に到着。ここからなだらかな登りここを登りきれば大森山（１０７８㍍）本日の最高峰。

大森山を過ぎて右手に大崩壊の場所があり、その下には篠尾の集落が見渡せる。少し下ると大平多山への分岐。ここを過ぎバイケイソウの新芽がポツリポツリと若葉や顔を差しているので、中前さんによると、和歌山県では絶滅危惧種の稀少植物とのこと。

最後の倒木処理

玉置辻に到着

本宮で解散

最後に直径３０cmほどの檜の倒木があり、梶野さんは１５分かかるというが、ギャラリーが多いとモチベーションがあがると、彼のチェーンソーの腕前を拝見する。なかなか見事な捌きである。

生熊千満子さんはタフで足取りも軽くスイスイと歩を進めていく。流石グランドゴルフや畑仕事で鍛えた足腰は伊達じゃないと感心する。

玉置辻には１６時過ぎに到着。厳しい登りの連続で体力の要する踏査であったが、新緑とモチツツジ、シャクナゲ、ミツバツツジ、アケボノツツジ等この時期ならではの花々を愛でることができた。年齢的にはきつかったが、まだこの位なら時間を掛ければ歩けることができると自信につながった踏査であった。

最後に今回３人のトレランの若者に出会った。速さを競うことも素晴らしいが、若いときにしかできないこと、歳をとってもできること、経験をふまえ山を楽しむとは何か、と改めて帰ってから考えてみた。慌てず焦らず安全にも山登りの一つである。

（記；濱野　写真；梶野、志岐）

行動タイム

山在峠08：00→09：10大黒天神岳→09：35金剛多和09：50→11：45五大尊岳12：30→14：50大森山→16：05玉置辻